

電気通信大学 平成18年度シラバス

| | | | |
|---------|--|----------|--------|
| 授業科目名 | 力学第一 | | |
| 英文授業科目名 | Mechanics I | | |
| 開講年度 | 2006年度 | 開講年次 | 1年次 |
| 開講学期 | 1学期 | 開講コース・課程 | 夜間主コース |
| 授業の方法 | | 単位数 | 2 |
| 科目区分 | 専門科目-専門基礎科目-必修科目 | | |
| 開講学科・専攻 | 情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科 | | |
| 担当教官名 | 鈴木 勝 | | |
| 居室 | 東1-103、106 | | |

| | |
|--------------------------|------------|
| 公開E-Mail | 授業関連Webページ |
| m-suzuki@e-one.uec.ac.jp | |

| |
|--|
| <p>【主題および達成目標】</p> <p>(a) 主題</p> <p>「力学第一」の目標は「自然を数式で原理的に理解すること」である。自然界のさまざまな現象は数学で記述されている。力学はその最も簡単な例であり、最も基礎的な例である。それは物理学の基礎であるばかりでなく、理工系学生の考え方を養成する科目である。</p> <p>(b) 達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・位置，速度，加速度の関係を微分・積分によって理解する。 ・簡単な運動を運動方程式から出発して解析する。 ・仕事とエネルギー（運動エネルギー，位置エネルギー）の概念を理解する。 ・万有引力による運動において角運動量（したがって面積速度）が保存することを理解すること。 |
|--|

| |
|--------------------------------|
| <p>【前もって履修しておくべき科目】</p> |
|--------------------------------|

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

【教科書等】

教科書:『な?るほどの!力学』伊東敏雄著(学術図書)

【授業内容とその進め方】

高校で物理を履修しなかったことは問題ないが、高校で習う程度の微分と積分がおぼつかないものは大いに復習しなければ単位は取れません。

標準クラスは、高校で物理Iおよび物理IIを履修していることを前提として授業を進める。基礎クラスは、高校で物理を履修していないものにも配慮して授業を進める。どちらのクラスで受講するかは皆さんの自由判断にゆだねますが、高校で物理IIまで履修していないもの、履修はしたが理解が十分でないものは基礎クラスで履修することを薦めます。再履修者は原則として基礎クラスとする。

授業の内容は、以下の通りである。各項目がおおよそ1回の講義に対応する。

11, 12については授業の進路により簡単に触れることしかできないことがある。

1. 最初の時間は標準クラス、基礎クラス合同のガイダンス。
2. 位置、速度、加速度、および角度、角速度、角加速度
3. 運動の法則
4. 物理量の単位と次元
5. 等速運動と等加速度運動
6. 抵抗を受ける物体の運動
7. 単振動と単振り子の運動
8. 仕事と仕事率の定義、線積分、運動エネルギー
9. 保存力場と位置エネルギー、力学的エネルギー保存則
10. 角運動量と面積速度
- (11. 万有引力とケプラーの法則)
- (12. 人工衛星の軌道、惑星の軌道の解析)

各時間ごとに授業のキーポイントを簡単にまとめてもらう。また数回レポート課題

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a) 評価方法

出席時間数が、その総授業時間数の3分の2に達する者を学生を評価の対象とする。
評価は、期末試験の50%以上の得点をもって及第とする。期末試験で及第点に達しないものに対して補講試験を行う。期末試験では一部に標準クラスと基礎クラスに共通の問題を出題し、両クラスで成績に有利、不利がないよう配慮する。
試験の日程は以下予定している。

(b) 評価基準

- ・位置、速度、加速度のひとつが与えられたとき他を求めることができること。
- ・簡単な運動方程式(微分方程式)を解くことができること。
- ・その他の力学の基礎的内容(仕事、エネルギー等)を理解していること。

【オフィスアワー：授業相談】

特に指定せず、いつでも訪れてください。

【学生へのメッセージ】

「力学第一」は主として質点の力学を扱う。まず力学に出てくる用語の物理的な意味を完全に理解しよう。このことは論理的思考に不可欠である。ただし必要な用語は非常にわずかである(キーワード参照)。

高校物理のような式の暗記や知識の詰め込みは不要である。そのかわり、なぜその式が出てきたのかを理解するように努めよう。つねに筋道立てて論理的に説明することができるように勉強して欲しい。

物理学は架空の世界の抽象理論ではない。数式で導いた結果は現実の現象を表す。数式の表す現実のイメージが湧かないならば、何もわかってないことになる

授業は土曜日の1時限にあるが、単位を取得する秘訣は“欠席しないこと”と“遅れないこと”である。途中で欠席すると、次回から授業がわからなくなる。わからないままに放っておいたらまず単位は取れないだろう。もしわからなくなったら、遠慮なく上記居室を訪れて欲しい。

電気通信大学 平成18年度シラバス

| |
|--|
| |
|--|

| |
|-------|
| 【その他】 |
| |